

渇水に伴う水稻作付けの節水対策と育苗管理について

徳島県立農林水産総合技術支援センター 経営推進課
令和8年3月2日

冬場から続く少雨の影響により、吉野川水系及び那賀川水系のダム貯水率が低下しています。

今後、農業用水の需要が高くなることを踏まえて、限られた用水を有効に活用し、田植えに向けた準備を行いましょう。

1. ほ場の管理

畦畔等からの漏水防止及び節水のため、以下の対策を行いましょう。

- 畦が崩れたり変形していないか確認し、補修する。
- 畦の周辺も含め、モグラやザリガニの穴、亀裂があれば埋める。
- 壁面のコンクリートのひびや穴を補修する。
- 少ない水で代かきができるよう、ほ場を均平にしておく。
 - ・耕耘作業により、ほ場周辺に土が溜まりやすく、すり鉢状になりやすいため、高い場所の土を低い場所に移動し平らにする。
- 用排水路の配管や堰が壊れてないか確認し、補修する。
- 短時間に水が回るよう、ほ場内に通水用の溝をつくる。
 - ・トラクターのタイヤ跡でも効果がある。

2. 代かき

効率的に用水を活用するため、以下の対策を行いましょう。

- 代かき前に地域ぐるみで取水を調整する。
 - ・一斉に取水すると代かきができなくなるので、計画的な水利用を行う。
 - ・水の掛け流しはやめる。
- 浅水で丁寧な代かきをする。
 - ・土が8割、水が2割見える程度を目安とする。
 - ・代かきまではゆっくり水をため、しっかり土を湿らせておく。
 - ・水が足りないようであれば、少しずつ入水しながら行う。

3. 育苗管理（用水不足による代かき遅延で育苗日数の延長が予想される場合）

苗の徒長・老化を防止するため、以下の対策を行いましょう。

- 苗箱へのかん水は朝方1回にする。
 - ・日中に行う場合は、覆土表面が乾き、苗がしおれる部分のみとし、午後3時以降はかん水を行わないようにする。
- 昼は換気を徹底し、夜も外気温で管理する。
 - ・強風時は乾きやすいので注意する。
- 育苗日数が長くなるとムレ苗の発生が多くなることから、予防的に薬剤散布を行う。
- 播種25日以降は肥料切れに注意する。
 - ・1箱あたりチッ素成分0.5gを目安に、液肥等で苗の黄化を防ぐ。
 - ・追肥後は葉やけを防ぐために清水を軽くかける。
- 苗いもち病の発生に注意する。